

1. 日時・場所：2020年 ○月 ○日 ○曜日 第○限 （○○教室）
2. 対 象：3年 ○組（○○名）
3. 題 材：自立した消費者としての責任と行動
4. 題材について

4.1 題材観

本題材は、新学習指導要領「C消費生活・環境」の(1)「金銭の管理と購入」のア及びイと(2)「消費者の権利と責任」のア及びイに基づいている。家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる中で、家庭分野においては、計画的な金銭管理、消費者被害への対応に関する内容が新設されたとともに、他の内容との関連を図り、消費生活や環境に配慮したライフサイクルの確立の基礎となる内容の改善も図っている。本題材では、消費者として自立するための知識と技能を身につける学習を通して、生徒たちが、さまざまな変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、さまざまな情報を見極め、最適解を導き新たな価値を再構成する力を育成することを目的としている。

4.2 生徒観

キャッシュレス化の進行に伴って電子マネーやスマートフォンを使って決済している生徒が多くいるなかで、多様化した購入方法や支払い方法の特徴を理解し、計画的な金銭管理ができている生徒はごく一部であるなど、消費者として自立するための知識と技能が身につけているとは言いがたい。また、自身の消費行動が社会や環境に及ぼす影響について考えたり、それらについて主体的に取り組んだり、生活を工夫しているかについても個人差が大きい。

4.3 指導観

題材の始めに、自分の消費行動を振り返って、商品の選択・購入について問題を見いだして課題を設定させる。そして、色々な購入方法や支払い方法、それに伴う消費者の権利と責任に関わる知識及び技能を身につけた後、自ら設定した課題の解決を試みる。これらから、自立した消費者としての責任ある消費行動を工夫し創造しようとする実践的な態度及び生活の中から課題を見つけ出し解決する能力を育成することをねらいとしている。

5. 題材の目標

- 5.1 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解する。
- 5.2 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解する。
- 5.3 物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理を適切に行い、得た情報を活用して購入について考え、工夫する。
- 5.4 物資・サービスの選択・購入や、自立した消費者としての消費行動について、問題を見いだして課題を設定し、その解決に取り組み、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につける。
- 5.5 よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、生活を工夫

し創造し、実践しようとする。

6. 題材の評価基準

観点	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
題材の評価基準	① 色々な購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ② 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその適切な対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ③ 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。	① 物資・サービスの購入について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 ② 自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	① よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。 ② よりよい生活の実現に向けて、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。

7. 指導と評価の計画（全6時間）

時間	各時間の目標	学習活動	評価基準との関連及び評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の消費生活を振り返り、問題を見だし、課題を設定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や家族の生活における物資やサービスの購入を振り返る。 問題点を見出す。 グループ内で交流し、課題を設定する。 	イ - ① ウ - ① ・ 行動観察 ・ ワークシート
2	<ul style="list-style-type: none"> 「契約」について知り、消費者としての自覚を持つ。 購入方法や支払い方法について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「契約をしたことがあるか」について振り返り、「購入」が「契約」であることを理解し、「権利」と「責任」が伴うことを自覚する。 通信販売やクレジットカードなどの利用を例に挙げ、購入方法や支払い方法についてまとめる。 	ア - ① ・ 行動観察 ・ ワークシート
3	<ul style="list-style-type: none"> 消費者トラブルとその背景について理解し、対応について考え発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な悪質商法や消費者トラブルなどの例を知り、その対処方法を考え発表する。 	ア - ② イ - ① ウ - ① ・ 行動観察 ・ ワークシート
4	<ul style="list-style-type: none"> 消費者を支える仕組み（権利と責任）を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 班ごとに個別の消費者トラブルの事例について検討し、消費者の8つの権利と5つの責任について、①守られなかった権利、②果たされた責任について、それぞれまとめ、班ごとに発表する。 「消費者の権利と責任」事例ポスターを作成する。 	ア - ③ イ - ② ウ - ② ・ 行動観察 ・ ワークシート ・ 成果物

5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報を活用して「商品を購入すること」について考え、工夫する。 ・ 「消費者としての責任のある行動」について考え、工夫する。 ・ 消費生活が社会や環境に及ぼす影響を考えて行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「綿の生産地と身の回りの衣服」を題材に、自分や家族の消費行動が社会に及ぼす影響や資源や環境への配慮について考え、話し合う。 ・ 自立した消費者としての責任ある消費行動について実践できることを考え、発表し合う。 	ア - ③ イ - ①, ② ウ - ② <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動観察 ・ ワークシート
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

8. 本時（第5・6時）

8.1 目標・評価基準及び評価方法

- ・ 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解することができる。＜知識・技能＞
 （発表内容による評価・ワークシートの記述内容の点検）
- ・ 収集・整理した情報をもとに、責任ある消費行動について考え、工夫することができる。そのことを論理的に表現することができる。＜思考・判断・表現＞
 （発表内容による評価・ワークシートの記述内容の点検・行動観察）
- ・ グローバルな視点からの消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取りくんだり、自分や家族の消費生活を振り返って改善したりなど、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。＜主体的に学習に取り組む態度＞
 （発表内容による評価・ワークシートの記述内容の点検・行動観察）

8.2 準備物

生徒 教科書，資料集，ワークシート

教師 教科書，資料集，ワークシート，並べ替えパズル，ロールプレイ資料，映像資料，できることランキング資料，PC，プロジェクター

8.3 学習指導展開計画

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の実際・教師の手立て
3分	今着ている自分の洋服のタグを見る。 その他のサンプルも見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段着用している衣服について関心を持たせる。 ・ 綿や絹製品，また中国製，インド製，スリランカ製など，多様なサンプルを用意しておく。 	「主体的に学習に取り組む態度」② <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の消費行動に関心を持っているかどうかを，行動を観察し評価する。 ○ Cの生徒への手だての例 ・ 関心を持たない生徒には，用意しておいた衣服を見せてイメージを広げたり，興味を持たせたりする。
10分	綿製品ができるまでの過程のカードを並べ替えてみる。(グループ活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段着用している衣服がどのような過程を経て手元に届くのかを把握する。(原料，製造， 	「知識及び技能」③ <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品のサプライチェーンや，商品に関わる人や地域の実情を理解しているかどうかをワークシートの記述内容を点検することで評価する。

30	<p>ロールプレイを通して、衣服に関わる人たちの立場や事情を知る。グローバルな相互依存関係を知る。事件の発生を通して見えてきた問題点に対して課題解決を行う。(グループ活動)</p>	<p>販売のサプライチェーンを理解する。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者として衣服を購入する際に、「誰が関わったか」「どこから来たか」「どれくらいの期間を経たか」など、考えたことがあるかを問い、イメージを高め、思考を深めさせる。 ・ 並べ替えが完成したら、各過程の実情を紹介する。(例えば、日本の輸入衣料の約 75%は中国から (2013 年) など) ・ 6 人の登場人物を割り当て、相関図を使って説明した後、「Who am I? カード」を読み合わせることによって、それぞれの立場や気持ちを共感させる。 ・ 「Happening! カード」を配布し音読した後、その出来事について「役割の立場でどう思ったか」など感想を、演じながら共有させる。 ・ 「Voice カード」を使って、それぞれの立場に必要な助言を与え、それぞれの立場の自覚を高め、情報収集させる。 ・ 「What to do カード」を使って、課題を解決 	<p>「思考・判断・表現」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「並べ替え」や「各過程の実情の理解」を通して、商品が手元に届くまでの過程や商品そのものやその背景などについて深く思考しているかワークシートの記述内容を点検したり行動を観察したりして評価する。 <p>「主体的に学習に取り組む態度」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ活動に積極的に参加しているか、関心を持っているかどうかを、行動を観察し評価する。 <p>○ Cの生徒への手だての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サプライチェーンのグローバル化を理解しにくい生徒には統計データや映像資料などを用いて再度説明する。 <p>「知識及び技能」③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品に関わる人や地域の実情を理解しているかどうかをワークシートの記述内容を点検することで評価する。 <p>「思考・判断・表現」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「Happening カード」を通して、商品生産現場の実情や背景などについて深く思考しているか、グループ活動で「思ったことや考えたこと」の発言内容などの行動を観察し評価する。 ・ 「What to do カード」の記述内容を点検することで、解決策や改善点を構想できているかを評価する。 ・ グループ内共有活動で、論理的に表現できているかを観察することによって評価する。 <p>「主体的に学習に取り組む態度」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「Who am I? カード」の読み合わせに感情がこもっていたか、行動を観察して評価する。 ・ 自立した消費者としての行動の実践を
----	--------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

		<p>するためにそれぞれの役割で何ができるかを考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「What to do カード」に書いた内容を、グループ内で共有させる。 	<p>見いだせているかについての「What to do カード」の記述内容を点検することで、課題を解決する力を身に付けているか評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ Cの生徒への手だての例 ・ 「自分の気持ち」ではなく、「役割の気持ち」であることを強調し、発言をしやすくする。 ・ 人や地域の実情を共感しにくい生徒には統計データや映像資料などを用いて再度説明する。 ・ 解決策をまとめられない生徒には、クラスメイトの意見を参考にまとめさせる。
7	<p>クラス内で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループでまとめた内容を発表し、全体で共有させる。 	<p>「思考・判断・表現」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループでのまとめた課題解決を論理的に表現できているかを観察することによって評価する。 <p>「主体的に学習に取り組む態度」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ発表に積極的にかかわっているか、行動を観察して評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ Cの生徒への手だての例 ・ グループでの役割分担を促す。
10	<p>映像資料から、インドの綿畑で働く子どもの暮らしを視覚的に実感する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ インドの綿産業と児童労働に関わる背景を知らせ、それらと日本や、自分の消費活動とのつながりを自覚させる。 	<p>「知識及び技能」③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 商品に関わる人や地域の実情と自分の消費生活とのつながりを理解しているかどうか、ワークシートの記述内容を点検することで評価する。 <ul style="list-style-type: none"> ○ Cの生徒への手だての例 ・ 人や地域の実情を共感しにくい生徒には統計データや映像資料などを用いて再度説明したり、より身近な題材を紹介したりする。
20	<p>ロールプレイで担当した役割ではなく、自分の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生としてできること、家族としてできる 	<p>「思考・判断・表現」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際の自分の立場で、自分の問題として捉え、課題を解決するために深く思考し

	<p>立場でできることを考える。 ダイヤモンドランキングを行う。</p>	<p>こと、学校の活動としてできること、地域としてできることなど、様々な立場から「できることランキング」を作らせる。8 つ例を挙げ、1 つは自分で考えさせることによって、より多角的で深い思考を促す。ランキングの基準も選択させることによって、具体的に考えさせる。</p>	<p>ているか、ワークシートの記述内容を点検することで評価する。</p> <p>○ Cの生徒への手だての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の消費生活を再度ふり返らせ、問題点や課題を具体的に見つけさせ、その解決策を見いださせる。 ・ 解決策をまとめられない生徒には、クラスメイトの意見を参考にまとめさせる。
15	<p>グループ内で「できることランキング」としてまとめ、クラス内で共有する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各グループで課題解決につながる提言「できることランキング」をまとめさせ、クラス内で発表することによって全体で共有させる。 	<p>「思考・判断・表現」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ランキング」やその根拠となる課題解決について深く思考しているか、グループ活動での発言内容など行動を観察し評価する。 ・ グループ内共有活動やクラス発表で、論理的に表現できているか、行動を観察することによって評価する。 <p>「主体的に学習に取り組む態度」②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内共有活動やクラス発表で、主体的に取り組んでいるか、行動を観察することによって評価する。 <p>○ Cの生徒への手だての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループでの役割分担を促す。
5	<p>まとめ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のまとめとして全体をふり返らせながら、自分の考えをまとめさせる。 	<p>「知識及び技能」③</p> <p>ワークシートの記述内容を点検することで評価する。</p> <p>「思考・判断・表現」②</p> <p>ワークシートの記述内容を点検することで評価する。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」②</p> <p>ワークシートの記述内容を点検することで評価する。</p>